

(1) 魅力ある授業の展開と学力の向上をめざす。

項目	分掌名	取組・達成基準	中間期の達成状況	年度末の達成状況	来年度の取組	評価(中間)	評価(最終)
①魅力ある授業づくりと落ち着いた授業環境づくりの推進(授業規律の確立)。	教務	授業評価として、生徒対象授業アンケートを実施する。 基準:全講座で実施できる。(新規導入)	7~9月で一部講座で実施できた。実施した教員約10名。 1~2月に2回目を実施する。	全員の取組までには至っていないようであるが、教員の意識付けにはなったと考える。	継続実施	B	B
	3年団	落ち着いた環境で卒業に向けての学力の充実を図る。 基準:教室の整理整頓がいつも90%以上できている。(現在80%程度)	教室はほぼ整理整頓ができている(80%)。授業は静かにできる。	教室はほぼ整理整頓できている。落ち着いた環境が保たれている。	継続して取り組む。	B	B
	産業工学	1年:授業規律の確立 全員が授業に集中して話が聞ける。 2・3年:座学と実習の連携によるわかりやすい授業を展開する。	1年:授業規律が出来ていない。 2・3年:座学の理解力が低く、実習との連携が図れない。	1年:授業規律が出来ていない。 2・3年:座学の理解力が低く、実習との連携が図れない。	継続して取り組む。	C	C
②資格取得・検定合格を奨励し、合格率の向上を図る。	各学科	次の資格・検定の合格者数・合格率を向上させる。 総合(ビジネス):簿記3級80%3年生(平成24年度78% 23年度40%) 総合(生活):家庭科技術検定3級 2年生で全員合格(平成24年度のべ90%) 総合(福祉):介護職員初任者研修 全員修了(平成24年度94%) グリーン環境:危険物取扱者丙種10名(平成24年度7名) 食品科学:危険物取扱者丙種1年生17名(平成24年度9名、それ以前は約50%) 産業工学:自動車整備士の合格率70%(平成24年度53.6%)	(総合)ビジネス:11月末の簿記検定取得に向けて昨年度より2週間程度早く検定対策に取り組める予定。 総合(福祉):介護職員初任者研修に取組中 グリーン環境科:指導中であるが、目標達成は厳しい状況。 食品科学科:危険物について現在11月の試験に向け指導中である。目標達成は厳しい状況。	・総合(ビジネス):簿記3級55%今年度は検定が文化祭の翌日であり、1週間前と直前補習が実施できなかった。 ・総合(福祉):介護職員初任者研修実施中 ・食品科学科:危険物取扱者丙種試験合格率27%。目標には達しなかった。合格者9名で昨年度と同様であった。 ・グリーン環境科:危険物取扱者丙種8名合格、目標の10名には届かなかった。	・総合(ビジネス)来年度、文化祭直後であっても1週間前と直前補習は重要であることを実感した。時間帯を遅くしてでも来年度は実施したい。 ・総合(福祉)継続実施 ・総合(生活)家庭科技術検定被服11名全員合格。食物8名合格(73%)。 ・食品科学科:来年度も合格率の向上を目指し、引き続き受験させたい。 ・グリーン環境科:来年度も合格率の向上を目指し、引き続き受験させたい。	B	B
③研究授業・授業評価・授業公開など魅力ある授業づくりに関する研修の充実を図る。	教務	学習評価の通知内容の見直しを検討する。 基準:新通知表が完成する。	通知票の形式は維持しながら、評価の仕方を見直す方向で検討中である。	教務課で検討した結果、各学期における評価の提示内容に変更しないことに決定した。しかし、中間と期末とでは点数の内容が異なるので、通信欄に記載することにした。	継続して研究する。 併せて、見込点の計上方法について検討する。	B	B
	グリーン環境	学期に2回の研究授業を行い、授業力の向上を図る。 すべての教員が、一つ以上新たな授業の手法を身につける。	6月と7月に研究授業を実施。協調的な学習など新しい取り組みも実施。	6月、7月、11月、12月、2月に研究授業を実施。文科省の研究授業にも科として積極的に取り組めた。	授業力の向上に終わりは無いので継続して取り組んでいく。	B	A
	授業改善委員会	授業改善への意識を高めるため、教員の研修機会を2回以上設定する。	教員研修会2回実施	教員研修会3回実施	授業改善への意識を高めるための取組	B	B
④少人数学習や個別指導などきめ細やかな指導の工夫を図る。	授業改善委員会・国語科・数学科	学び直しの取組が計画的に実施でき、成果の振り返りと計画の修正ができる。 朝の基礎学力の時間が軌道に乗り、90%以上の生徒が集中して取り組んでいる。	朝の基礎学力の確認テストを実施し、学年、クラスの傾向を確認できた、2学期も順調にスタートしている。	朝の基礎学力の確認テストを実施し、学年、クラスの傾向を確認できた、3学期末の確認テストの実施もできた。	朝の基礎学力の時間の継続	A	B

(2) 規範意識の定着を図ると共に、心豊かな人づくりをめざす。

項目	分掌名	取組・達成基準	中間期の達成状況	年度末の達成状況	来年度の取組	評価(中間)	評価(最終)
①勝高三訓による規範意識の定着を図る。 ・挨拶・身だしなみ ・時間厳守 ・整理・整頓	生徒	90%の生徒が挨拶ができるようになる。 始業時の遅刻者数を、年間平均でクラス1名以内にす。 特別指導件数70件以内。(平成24年度は、117件) スカート丈の遵守率40%以上(平成24年度は30%)	80%の生徒が挨拶ができている。 朝の遅刻者数は、減少している。 特別指導件数29件 スカート丈の遵守率は30%	80%の生徒が挨拶ができている。 朝の遅刻者数は、大幅に減少した。 特別指導件数54件 スカート丈の遵守率は30%	90%の生徒が挨拶ができるようになる。 スカート丈遵守率50%以上(平成25年度30%) 特別指導件数40件以内。(平成25年度は、44件) スカート丈の遵守率40%以上(平成24年度は30%)	A	B
	1年団	90%以上の生徒が正しい着こなしができている。 授業や集会の始まりの時に整列・着席ができている。 すべての教室でごみを散らかさない習慣ができている。	多くの生徒は、着こなし、授業規律、ゴミの管理等できているが、一部のクラス、一部の生徒が慣習的にできないままになっている。	制服の着こなしについては、冬服になってからできていない生徒が増加した。授業規律や集会・ゴミなどの管理については多くの生徒ができているものの、一部の生徒や一部の生徒ができないままになっている。	継続して取り組む。但し、指導方法についてはさらに検討が必要である。	B	B
	2年団	正しい着こなしができている生徒が90%以上。	クラスによって50%~70%が出来ている。正しい着こなしが出来ている定着率を上げることは中々難しい。	クラスによって異なるが60%程度はできる。	後半フードのある防寒着の着用が増えた。来年度は進路決定に備えて取り組ませたい。	C	B
	3年団	あらゆる場面(授業・集会・HRなど)で勝高三訓を徹底させる。 正しい服装と礼ができ、授業が美しい姿勢で受けられる生徒が90%以上。	注意を受ければ正しい服装になるが、すぐに着崩す生徒が多い。	就職や進学活動を通じて正しい服装の着こなしができるようになった。崩すこともあるが、注意すれば直す。	継続して取り組む。	B	B
	総合学科	正しい服装で授業が受けられる生徒が各講座90%になる。 授業の前に教室、特に机上がきちんと整理されている。各講座で90%達成できる。	注意をうけると改善するが、すぐに崩れる傾向にある。授業規律の面で不十分などが見られるので、今後改善に向けて検討中。	注意を受けると素直に対応する生徒がほとんどである。授業規律については改善傾向にある。服装については今後も継続指導が必要。	継続指導が必要。	C	B
	食品科学	実習での5分前集合、実習に適した身なり行動の定着率100% 使用したものを元通り整頓することの習慣化ができる。	5分前集合は基本的にできているが、実習室入室前の服装検査で時間がかかり、できていないことがある。 実習に適した身なり行動は100%できている。 使用した道具は洗浄後、適した場所に返すことができる。 継続指導が必要である。	5分前集合は基本的にできている。 定位置管理はほぼできている。	実習での基本であるため、継続指導をする。	A	A
②人としての「生き方、在り方」を人権教育や道徳などを通じて探求し、豊かな心を育てる。	生徒	学校行事における生徒・教員の満足度70%以上(平成24年度約60%)	体育祭、文化祭に向けて生徒が主体的に計画、準備に取り組んでいる。今後生徒アンケートにより満足度を確認する。	球技大会の満足度49.3% 体育祭の満足度66.8% 文化祭の満足度74.4%	生徒の主体性をもっと全面に出した学校行事を企画・運営する。	A	A
③様々な課外活動やボランティア活動を通じて個性の伸長を図ると共に、望ましい資質を育てる。	ボランティア係	高校生社会貢献活動を軌道に乗せる。 夏のボランティア参加者が30名以上になる。(平成24年度6名例年20名)	ボランティア参加は活発。夏ボラ参加16人。学科設定、学年団設定ボラは未実施。インターシップは新規にM1実施。全体に未だ軌道には乗っていない。	勝央町ボランティア協議会との連携が深まり、ボランティア機会は増えたが参加者数は伸びない。地域イベントへの出店も増えた。社会貢献活動は学科設定、学年設定は未実施が多い。3学期に予定実施とインターシップの準備。	教員の組織作り。生徒の自主組織も検討必要。ボランティアクラブまたは係の新設を検討したい。	C	C
④生徒の自主的な保健衛生・安全管理の取組を推進し、自己管理能力を育てる。	厚生	う歯の治療率を43%とする。(平成24年度末42%)	う歯治療必要者77名に対して、1学期末までの治療済み者6名で7.7%である。	う歯の治療率は、年度末42.9%で、ほぼ達成した。	治療率の目標を45%に上げ、夏休みまでの早い時期に治療をさせる。	C	A
⑤教育相談の充実を図り、心の悩みに対する理解と支援を図ると共に、発達障害を抱える生徒の支援を充実させる。	教育相談	心の健康相談の広報・係会の回数を月1回以上行い、情報収集を充実させる。(平成24年度は年9回実施) 発達障害の重い生徒に対し、個別の支援計画が作成できる。(現在は作成できていない。)	健康相談は予定通り進行中。生徒の現状から、回数をもっと欲しい。 個別の支援計画の作成途中。	健康相談は、今年度臨時に3回追加している。もっと回数を増やしたい。個別の支援計画は作成途中。	健康相談の枠を増やす。	B	B

(3) キャリア教育の一層の充実により進路実現を目指す。

項目	分掌名	取組・達成基準	中間期の達成状況	年度末の達成状況	来年度の取組	評価(中間)	評価(最終)
①様々な活動を通じ、将来の地域を担う人材の育成を図る。	地域PT	地域人材育成事業の効果的な実施ができる。詳細は別紙。	◎S科 スイーツ開発 G科 教員研修 ○各科 社会人講師 C科 特産品開発 △ふれあい市の研究 S科 長期インターンシップ G科 森林整備活動 M科 教員研修 アプリ教材開発 (○△は今後取り組む)	◎S科 スイーツ開発 G・M科 教員研修 ○各科社会人講師 C科特産品開発 G科森林整備活動M科 アプリ教材開発 S科 長期インターンシップ ×ふれあい市の研究	事業がなくてもできることが多いので継続して取り組む	B	B
②発達段階に応じたキャリア教育の充実を図る。	進路指導	年度末進路希望未定者10%以内(1,2年生)(平成24年度1年生16%、2年生5%) 進路決定満足度70%以上(3年生)(平成24年度68.7%)	目標達成に向け、1,2年の進路LHRを増やした。3年の進路決定に於いて、応募前職場見学参加者の増加(1.7社/人→2.4社/人)など、検討を十分させることができた。	年度末進路希望未定者10.5%(1年生)、8.5%(2年生)で、後一步の結果になった。進路決定満足度70.9%で目標を達成できた。	厚生労働省主催の2年生向け就職ガイダンスの実施を望めなくなった。これに代わる行事を企画・実施する	A	A
	産業工学	2年:受検を希望する企業名をいえる生徒が90%以上になる。 3年:12月末日までに全員進路を決定する。	指導を継続中である。	2年:1月に実施。 3年:2名未決定。	継続して取り組む。	B	A
③キャリアアドバイザーや関係機関との連携を深め、進路開拓を図る。	進路指導	学科、3年担任、進路指導課、高校生就職アドバイザーによる、求人開拓と企業情報の収集と共有を行う。6月中旬までの総事業所訪問数を90社、年間延べ150社とする。	6月中旬までの総事業所訪問数は85社で、目標に届かなかった。しかし、7,8月で6社訪問することができ、概ね目標は達成できた。	10~2月下旬までの総事業所訪問数は144社で、年間目標を達成できた。	継続して取り組む	A	A
④基礎学力の充実を図ると共に、生徒の適性に応じた進路実現に向け実践的な力を育てる。	1年団	①すべてのクラスで静かに朝読書ができる。 ②授業不応者者をなくす。 ③QUを活用し、適切な学習集団の形成を図る。	一部の生徒が朝読に取り組みしていない。授業についても不応生徒が多いクラスで適切な学習集団の形成が遅れたり、困難になっている。Q-Uの活用で問題点は明らかになっているが、改善のための活用に取り組む必要がある。	朝読書についてはクラスによって状況が異なり、朝読の成果が見込めるクラスが一部ある。授業不応者も依然として多く、対応はしているものの十分な成果が得られていない場合もある。Q-Uは生徒理解のための活用ができるようになったが、活用方法の研究をさらに進める必要がある。	継続して取り組む。Q-Uの活用については先進的な取り組みについても研究し、本校に合った活用方法を導入する。学級経営についても、学年団に共通した取り組みを増やしていく。	B	B
	2年団	確認テストの学年平均が60点以上	1学期末の学年平均が57点である。今後2学期の朝の学習を通してレベルアップを図りたい。	2学期末の学年平均が55点である。総合の2クラスは平均点が60点を超過している。Cも57点である。GとMが40点台である。	来年度は進路決定に直結してくる部分でもあるので、継続して学習に取り組む。	B	B
	3年団	進路の具体的実現に向けて、きめ細かい個別面談を実施する。 進路に関する情報の共有を図るために、担任間の連携を深めて、希望進路の100%実現を目指す。	学校紹介就職希望102名、内定者68名、就職内定率約66.7%(11月14日現在)	2月末で内定率94.6%。未定の生徒も個別に活動している。	継続して取り組む。	B	B
	産業工学	1年:基礎学力の定着 SPIが50%以上正解できる生徒が70%以上になる。	授業の規律ができていないので、基礎学力以前の問題。朝の10分間の効果的な利用法を工夫したい。	授業の規律ができていないので、基礎学力以前の問題。朝の10分間の効果的な利用法を工夫したい。	継続して取り組む。	C	C

(4) 様々な連携活動を推進し、教育力の向上を図る。

項目	分掌名	取組・達成基準	中間期の達成状況	年度末の達成状況	来年度の取組	評価(中間)	評価(最終)
①各学科の特色ある取組を生かし、地域社会や異校種間の連携を深め、開かれた学校づくりを推進する。	グリーン環境	交流学习や、勝高自然塾を計画通り実施する。 基準:勝高自然塾の参加者が20人以上になる。(平成24年度10人)	交流学习については計画通り実施。自然塾については2学期以降実施であるが計画を見直す予定	交流学习については計画通り実施。自然塾については木工教室のみ実施。	交流学习については継続実施。自然塾については見直しの方向。	B	B
	食品科学	特産品開発や小学生との交流を通じて、地域社会や地域の学校などとの連携を図る。 基準:特産品が新たに1つ以上開発できる。 小学生との交流において、食品製造に興味を示してくれる児童が40%以上となる。(平成24年度はおよそ30%)	地域社会や地域の学校などとの連携できている。特産品の2つ(桃ピューレ、栗大福)は、本年度企業で生産された。小学生との交流ではアンケート結果より、80%以上の児童が食品製造に興味を示している。継続が必要である。	地域社会、地元の小学生との連携ができている。特産品として、桃ピューレは地元企業で生産された。栗大福は試食として製菓店で製造された。地元企業で来年度栗大福を製造して下さる予定。	地域との連携をより深め、勝間町の新たな特産品開発を目指す。	A	A
②情報発信に努め、「顔」の見える学校づくりを進める。	総合学科	各機会を通じて、新しい総合学科のアピールに努める。 基準:ホームページのブログの更新が月4回以上できる。	服飾デザイン系列のリーフレット作成・オープンスクールの各系列の特色の展示実施。 ホームページの更新月3回程度の実施。	後半ホームページの更新が滞りがちであった。	今後各系列での担当等検討の方向	B	B
③恵まれた教育資産を生かし関係機関との連携のもと地域の専門的研究機関としての役割を担う。	地域PT	金時ねぎの栽培、ワサビ田の復活、勝央スイーツの開発など各学科で1つ以上の取組ができる。	S科(スイーツ)G科(わさび田)C科(特産品開発)に取組中。M科は今後の課題に。	SGC科とも一定の成果を上げ、さんフェアで展示発表できた。M科もミスト装置などの取り組み有り。	引き続き取り組み、発展させていく。	B	A
④様々な研修を通じ、教職員の資質向上を図る。	教育相談	参加してよかったという実感の持てる研修の企画。 基準:参加率50%以上	第1回第2回ともに校内の研修会参加者約30名。	12月13日の公開授業や研修会は、全体の取り組みとしたので、参加者も多かった。	校内の職員研修を継続する。	B	A